

トランジション・ファイナンス | 事例③ : 川崎汽船株式会社

対象事例概要

■ 企業概要


業種	海運
所在地	日本
事業	日本の大手海運会社の1つ。「ドライバルク」、「エネルギー資源」、「自動車船」および「物流・近海内航」の4事業から成り立ち、アジアを中心としたグローバル戦略を進めている。

借入人	川崎汽船株式会社
評価機関	株式会社日本格付研究所
アレンジャー	株式会社みずほ銀行
トランジション・ストラクチャリング・エージェント	みずほ証券株式会社、株式会社みずほ銀行
借入額	約1,100億円
契約日	2021年9月27日
KPI	KPI1 : GHG総排出量 KPI2 : トンマイルあたりCO2排出量 KPI3 : CDP評価

排出削減目標

2030年	CO2排出効率50%改善 (2008年比)
2050年	CO2排出効率70%改善 (2008年比) CO2総排出量50%削減 ※

※ 2021年11月に「2050年までに、GHG排出量ネットゼロに挑戦する」ことを公表済



国際的な業界での目標

トランジション戦略

1. 社長直轄のプロジェクトチームによる推進	<ul style="list-style-type: none"> 次世代自動運航船開発 代替燃料・供給研究開発 等
2. 安全・環境・品質への取り組み拡大	<ul style="list-style-type: none"> 自動カイトシステム“Seawing”の導入 CCS実証実験
3. 足元で進めている研究・開発案件の取り組み拡大	<ul style="list-style-type: none"> LNG燃料焚き“デジタルフラッグシップ”自動車船竣工 FuelLNG、伊勢湾LNG燃料供給船 フリー水素サプライチェーンHySTRA始動 等
4. その他の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 投資に対するインターナル・カーボン・プライシング (ICP) 設定により低炭素投資を推進

基本指針四要素との対応

要素 1	<ul style="list-style-type: none"> トランジション戦略: 「環境ビジョン2050」では2℃未満のシナリオ分析に則って目標設定が行われており、IMO・パリ協定とも整合した戦略となっている。 ガバナンス: 複数の横断的で専門的なグループが経営会議に直結する「DRIVE GREEN NETWORK」を構築。経営陣の強いイニシアティブあり。
要素 2	<ul style="list-style-type: none"> 自社のサステナビリティ戦略で特定した23のマテリアリティのうち、環境保全を最重要課題の一つとして特定している。
要素 3	<ul style="list-style-type: none"> 中長期目標はIMOの水準を上回っており、SBTも取得。パリ協定と整合的な移行経路となっている。 国交省のロードマップとも整合的であり、長期戦略実現のための技術的根拠のある具体的な取り組みを有している。
要素 4	<ul style="list-style-type: none"> 2021年度から5年間で1,000億円の環境関連投資を計画。テーマ別の具体的な投資計画について可能な限り開示を行っており、透明性が高い。 投資計画策定根拠となるICPを導入している。

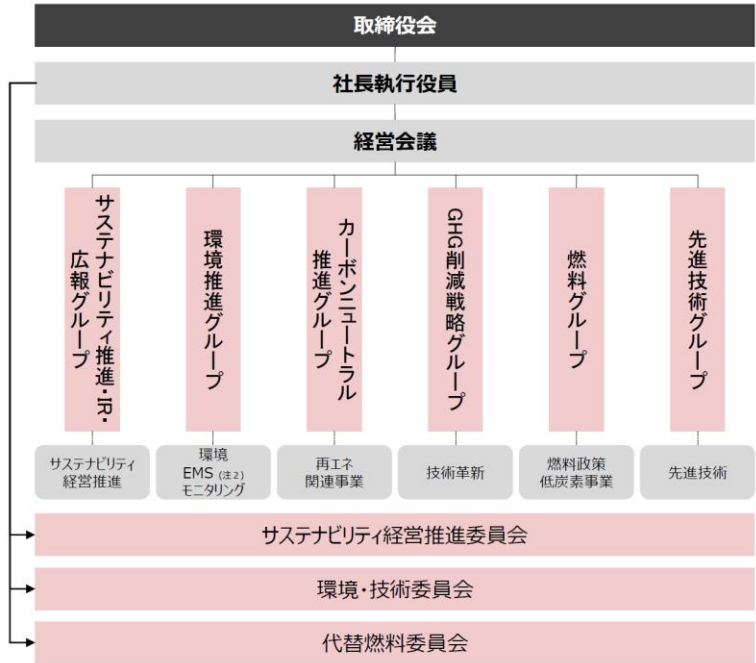
トランジション・ファイナンス | 事例③ : 川崎汽船株式会社

対象事例におけるポイント (要素1 : トランジション戦略とガバナンス)

トランジション戦略

目標	当社	IMO
2030年	温室効果ガス (GHG) 2011年比 排出効率 25%改善	—
	CO2 排出効率 2008年比 50%改善	CO2 排出効率 2008年比 40%改善
2050年	温室効果ガス (GHG) 総排出量 50%削減	温室効果ガス (GHG) 総排出量 50%削減
	CO2 排出効率 2008年比 70%改善	CO2 排出効率 2008年比 70%改善

ガバナンス体制



ポイント

- 川崎汽船では、2015年に「K」Line環境ビジョン2050」を策定。その後、2019年に目標を前倒して達成したことを受けて、2020年に環境ビジョン2050の見直しを実行。気候変動対応に戦略的に取り組んでいる。
- GHG排出削減目標については、科学的根拠に基づき、パリ協定及び国際的な産業界の基準であるIMO及び国土交通省等の目標と整合した形で設定。これらの目標の実現に向け、運航効率改善策の強化やLNG燃料船の導入拡大等の様々な取組を推進している。
- ガバナンス面では、社長を委員長とするサステナビリティ経営委員会を設置し、グループ全体のサステナビリティ推進体制の審議・策定を行っている。また、経営会議に直結するテーマ別の専門グループも設けており、強固なガバナンス体制が構築されている。

トランジション・ファイナンス | 事例③ : 川崎汽船株式会社

対象事例におけるポイント (KPI/SPTsの設定について)

KPI/SPTsの設定内容

- KPI1 : GHG総排出量
- KPI2 : トンマイルあたりCO2排出量
- KPI3 : CDP評価

- SPT1 : 資金調達全期間における毎年のGHG総排出量
(2050年までの2008年比▲50%の削減目標を線形補間し各年度目標を設定)
- SPT2 : 資金調達全期間における毎年のトンマイルあたりのCO2排出量
(2030年までの2008年比▲50%の削減目標を線形補間し各年度目標を設定)
- SPT3 : CDP評価のA-以上の維持

SPT1, 2の数値目標

【SPT1 : GHG排出総量目標(千トン)】

	基準年度実績						本件期限	
	CY08	CY21	CY22	CY23	CY24	CY25	CY26	CY50
CY08-CY50線形計画	13,677	11,560	11,398	11,235	11,072	10,909	10,746	6,839
CY08対比削減率	-	-15.5%	-16.7%	-17.9%	-19.0%	-20.2%	-21.4%	-50.0%

【SPT2 : トンマイルあたりCO2排出量目標(gCO2/トンマイル)】

	基準年度実績						本件期限	
	CY08	CY21	CY22	CY23	CY24	CY25	CY26	CY30
CY08-CY30線形計画	7.21	5.08	4.92	4.75	4.59	4.42	4.26	3.61
CY08対比削減率	-	-29.5%	-31.8%	-34.1%	-36.4%	-38.6%	-40.9%	-50.0%



ポイント

- KPIとして、GHG総排出量、トンマイルあたりCO2排出量、CDP評価という3つを設定しており、各KPIに基づく野心的なSPTsを設定している。また、SPTsの進捗状況について毎年第三者検証を受けることが予定されており、客観性が担保されている。
- ローン期間中にSPTsに係る重要な変更が生じた場合には評価機関がレビューを行い、当初想定していた野心度や有意義性が維持されるかを確認する予定となっている。

トランジション・ファイナンス | 事例③ : 川崎汽船株式会社

対象事例 : 川崎汽船株式会社 (“K”LINE) トランジション・リンク・ローン

モデル性審査結果 : 承認

トランジション戦略の実現に向けた新たな金融商品の組成でもあり、モデル事例として適切。

主なご意見

トランジション戦略

- 2015年から環境目標を設定し、2019年には進捗を踏まえた目標の見直しを実施しており、気候変動対応に戦略的に取り組んでいる点が評価できる。
- テーマ別に専門グループや委員会を設置しており、トランジション戦略の実行に向けた強固なガバナンス体制が構築されている。
- 代替燃料技術や船上でのCO2回収技術等、脱・低炭素化に資する新技術の開発に積極的に取り組んでいる点が評価できる。

科学的根拠

- IMOの目標値を上回る中長期目標を持ち、SBTiによる認定も受けていることを評価。
- KPIをGHG総排出量と排出係数、さらにCDP評価とすることで、中長期目標達成の実現性を高めている。

他の要素・その他

- GHG総排出量、トンマイルあたりCO2排出量、CDP評価という3つのSPTsを設定しており、意欲的な目標設定となっている。また、SPTsの進捗状況について毎年第三者検証を受けることが予定されており、客観性が担保されている。
- 投資計画が具体的に定められている他、内部炭素価格が導入されており、先行的な取組である。
- シンジケートローンを通じてより多くの金融機関が本ローンに参加することで、トランジション・ファイナンスの市場拡大・普及へのインパクトが期待される。
- ローン期間中にSPTsに係る重要な変更が生じた場合には評価機関がレビューを行い、当初想定していた野心度や有意義性が維持されるかを確認する予定であり、一つのモデルとなる案件である。

本資料は、トランジション・ファイナンスによる我が国の も2050 年カーボンニュートラルとパリ協定の実現への寄与に焦点を当てて行うものであり、トランジション・ファイナンスの金融商品としてのリスクについては、一切評価の対象としていません。本事業のモデル事例であって、通常のファイナンスと同様、信用リスク及びその他のリスク（債券の場合は価格変動リスク、流動性リスク等）は存在することに留意が必要です。